

R8.1.29 模擬カソファレンス台本

CM:今日はお集まりいただきありがとうございます。今日はケアプランの更新にあたって、目標の再確認をしたい思っています。今の目標は「難病であるパーキンソン病と正しく向き合うこと。」「住み慣れたこの家で、亀尾さんが自分らしく、息子さんも自分の時間を大切にしながら共に暮らす。」というもんですが、亀尾さん、ご自身では達成具合、この目標についてどうにい感じとられますか？

本人:そうですね…私の中では100点満点じゃあ思うとります。私はまだシャンとしとるつもりです。不自由でもええけ、自分の足で立っておきたい。それが私のたった一つの意地なんですわ。

息子:母さんはいつもそれじゃ。その”シャンとしとる”という言葉の裏で、俺がどれだけ割を食うとるか。

看護師:Aさん、看護の目から見ると、今の状態は危ないんです。先週お邪魔した時、朝の薬が夕方まで残つりましたね。パーキンソン病は、脳のドーパミンが足りんようになる病気。足りんのなら外から補う、それがこの薬です。薬を正確に飲むことは、亀尾さんの意地を通すための、自宅継続の軍資金なんですよ。

療法士:そうです。リハビリも同じです。難病を敵にするんじゃなく、向き合い方を変える工夫と一緒に練習していきましょう。

本人:時間をかけりやこの手で袋も開けるんじゃけ。看護師さんにハサミで切ってもらうほど、私はダメになっちゃおりません。

看護師:袋と格闘して時間を数分ずらすだけで、薬が切れ、1日中体がガチガチになり、夜中に寝返りがうてんようなって、肺に唾液が入る「吸入性肺炎」のリスクも高まります。私が事前に袋に切り込みを入れるんは、亀尾さんのちゃんと動ける時間を確保するための、大事な医療処置なんです。

療法士:そうです。薬を正直に飲むんは、亀尾さんが自分の足で歩き続けるための、一番の基礎工事なんです。

訪問介護員:亀尾さん、先日台所の床にうずくまっておられた時、ズボンが少し濡れとったのに気づきました。

本人:情けない…ほんまに情けないわ。間に合わんかった時、情けのうて床を叩いて泣きましたわ。

息子:母さん、俺は正直、床で泣いとる母さんを見るんが一番きついんじゃ。母さんのその強がりのせいで、俺は家におっても全く気が休まらんのよ。母さんがちゃんと、プロに頼って隙を見てくれんと、俺この家におれんくなるんよ。

訪問介護員:亀尾さん、亀尾さんが自宅で暮らすという目標を守るためには、どこで頑張って、どこで手を抜くかの仕分けが必要じゃないかと思うんです。

本人:手を抜くいうんは、死んどるのと一緒。

息子:母さん。母さんが台所で倒れとらんかビクビクしながら帰るんじゃなく、「お帰り」って笑って座つとる母さんに会いたいんよ。

CM:亀尾さん、今の亀尾さんの役割はプロの助けを賢く使って、機嫌よく安全にこの家に居続けること。それが、息子さんに対する今の亀尾さんの大事な役割なんじゃないでしょうか。

療法士:私らリハビリも、亀尾さんの筋肉だけを信じとるわけじゃありません。亀尾さんのすくみ足が出た時、外部刺激だけで足がすっと出ることがあります。これは、息子さんの介護力が加わって初めて完成する歩行なんです。

福祉用具:このボタンは、亀尾さんが「今は大丈夫。自分の時間を過ごしていいよ。」と息子さんに安心を伝えるための、解放の合図なんです。

CM:はい。では各職種の役割を確認しましょう。

看護師:私は「医療と観察の橋渡し」です。24 時間の体調管理で、亀尾さんが自宅で安眠して夜を越せるよう支えます。

訪問介護員:私は「生活の安全と母親としての役割のサポート」です。亀尾さんが母親の顔で息子さんと食卓を囲めるよう、全力で支えます。

療法士:私は、動きやすい環境整備と動作訓練をします。

福祉用具:僕は、自宅での生活を続けられるようにリハさんと協力していきます。

CM:はい。そして私はチームの交通整理です。亀尾さん、これでよろしいですか？

本人:すまんかったな、まこちゃん。私の意地があんたを追い詰めとったんじゃな。わかった。私はプロの人らに助けてもらう。病気が私の体から自由を奪おうとするんなら、私はあんたらプロの手を借りて、それを食い止めてみせる。

CM:はい、今日はありがとうございました。

ALL:ありがとうございました